



## 各国での支援活動

## ブータン支援報告

# パラリンピック・ディ初開催、BOC 会長付名誉顧問就任、 車椅子アクセス福祉車両寄贈

この度、宮澤理事長は、ブータンオリンピック委員会（以下 BOC）会長であるジゲル・ウゲン・ワンチュク国王弟殿下・第 5 代ブータン国王名代の意向により、BOC 会長付名誉顧問（Honorary Advisor to the President of the Bhutan Olympic Committee）に任命され、拝命いたしました。この名誉顧問職は、宮澤理事長のために BOC に新設されました。また、外国人が王族の名誉顧問に就任するのはブータン王国の歴史上初であると伺っています。

宮澤理事長は、ブータン王国のスポーツの発展と成長に対し、技術的支援、アスリート育成、奨学金、及び草の根育成活動等と多岐に渡って支援を行ってまいりました。これも偏にブータン王国の未来を見据え、国際競技大会に向けた競技力の向上をはじめとし、スポーツを通じた

健康増進や障がい者スポーツの振興、地域・経済の活性化、国際交流・協力など、スポーツ行政を総合的・一体的に進められるよう助言を行ってきています。

BOC 会長付名誉顧問就任状は、BOC 兼 Bhutan Paralympic Committee（以下 BPC）事務局長であるソナム・カルマ・ツェリン氏よりパラリンピック・ディ冒頭で宮澤理事長に授与されました。パラリンピック・ディには障がいの有無関係なく子どもたちが 300 名以上、大人も含めると総勢 600 名以上の人が集まり、スポーツ競技連盟協力のもと、ブータンで初の試みとなるバリアフリースポーツを皆で体験することができました。イベント冒頭では、宮澤理事長が BPC に車椅子輸送福祉車両 2 台寄贈も行われ、後日、安全運転祈願のためのラプサ・チュセ式が BOC 兼 BPC オフィスで行われました。

（FGC 石田博彰）



ユルフェマ王女と



パラリンピック・ディの様子



福祉車両贈呈



ライフル射撃選手と



### 2019年5月 エリトリアを訪問しました！

2019年5月24日（金）から6月5日（水）にかけ、世界子ども財団では宮澤保夫理事長がエリトリアを訪問しました。現地では文化・スポーツ庁のゼメデ・テクレ長官をはじめ、オリンピック委員会、陸上競技連盟、バスケットボール連盟、サイクリング連盟等の各関係者と2020年東京オリンピック・パラリンピック大会やその先へ向けての支援について協議を行いました。特にゼメデ長官とは何度も話し合いの場を持ち、文化・スポーツ庁へは6月9日（日）に開催されたアスマラマラソンや、パラスポーツ等の支援のための寄付も行いました。

スポーツ以外の分野でも、農業大臣アレファイネ氏、そして昨年世界子ども財団が日本のアジア学院での研修参加を支援した農業省職員2名とも再会、今後の協働

の可能性について話し合いました。

これまで協議を続けてきたユニセフエリトリアとの協働プロジェクト（幼児教育と水、衛生設備等のコミュニティ開発を組み合わせたプロジェクト）についても最終合意をし、本年8月からスタートすることとなりました。

さらに、今回の訪問には日本の水産企業の方も同行し、エリトリア最大の港町であるマサワでの現地視察や海洋資源大臣との会議など、エリトリアでのビジネス展開の可能性を検証しました。

いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが来年に迫っていますが、世界子ども財団ではさらに未来への視野を持ち、エリトリアの子どもたちや青少年への支援を続けていきます。  
(FGC 石井洋祐)



ゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官と



2020 東京オリンピックを目指すアスリートたち



unicef エリトリアのメンバーと



活気あるマサワの港を視察



## 湘南 GC 留学生!



スポーツ奨学生全員で記念撮影。後列左からナトナエル君、デジェン君、ベンジョ君、メルハウィ君、ダイヤモンド君。前列左からカウン君、ニダップ君、ソナムさん、アヌール君、ヤミンさん、スーさん

新設の空手部では、ミャンマーのカウン君、ヤミンさん、スーさんがインターハイ神奈川県予選でデビュー戦を飾り、昇級審査では全員が4級を取得することができました。夏に向けて、一層良い結果を残せるよう、練習に励んで欲しいです。

### 学習の様子

留学生たちはスポーツだけでなく、勉強にも一生懸命取り組んでいます。2、3年生は星槎国際湘南で日本人生徒と共に学

びながら、7月の日本語能力検定試験の合格を目指しています。新しい留学生たちも、ひらがな・カタカナの読み書きができるようになり、漢字の学習を開始しました。今後の成長が楽しみです。(FGC 井上美智代)

### 大会記録

留学生たちはこの春も、それぞれの競技において様々な大会、記録会に出場しました。陸上専攻では、エリトリアのデジェン君が、5月に宮崎県で開催された「ゴールデンゲームズ in のべおか」で5000mに出場し、13分43秒99の自己ベストを出しました。アーチェリー専攻では、ブータンからのニダップ君がインターハイ神奈川県予選に出場し、結果1回目281点、2回目283点の合計564点で16位となり、こちらも自己ベストを更新することができました。



1年生の日本語授業の様子



日本で出場した初めての大会で奮闘するカウン君



2年生の漢字授業の様子

## 第1回 株式会社鈴廣蒲鉾本店 様

### 伝統と未来をつなぐ 鈴廣のかまぼこづくり

天然素材と職人の技で  
味づくり一筋

美味しいかまぼこに必要なものは、いい魚、いい塩、いい水、そして職人の丁寧な仕事。鈴廣では大海原で育まれたグチ、ムツ、オキギスなどの天然の魚、ミネラルたっぷりの天然塩、箱根丹沢連山の水が100年もの歳月をかけてろ過される清冽な伏流水を使用しています。製造では、水産練り製品製造技能士の資格を持つ職人がすり身の状態を見極めながらかまぼこづくりを行っています。

お魚のいのちが詰まっているということ。私たちの仕事は、そのかけがえのないいのちをお客様のいのちに移し変えるお手伝いをしていくのだと考えています。その仕事を通じて、お客様、世のために役に立つこと、それが鈴廣の役割だと任じています。鈴廣のかまぼこは天然素材100%、化学調味料や保存料等は一切使いません。これもお魚のいのちを歪めずに魚本来の美味しさをお客様にお届けするため、創業以来守り続けていることです。

創業の地である小田原は、山、川、海の豊かな自然に囲まれ、相模湾の海の幸に恵まれています。この豊かな自然の体系を壊さぬよう、循環型のビジネスにも挑戦しています。かまぼこの製造過程で出る魚のアラから肥料を作り、その土で育てた野菜や果実を鈴廣のレストランや製品に使っています。森の恵みで育った海の幸が再び大地に戻り、お客様のいのちへと移りかわります。すべてのいのちがつながっていきいきと。これが鈴廣の願いです。

人と、地球と、  
未来のために

創業◆慶応元年 味づくり一筋



2019年7月発行

公益財団法人 **世界こども財団**

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

